

## 「優しさ」の広がり～誰かが、目が見えなくても使えるようにしてくれている

国際医療福祉大学院 中村哲也／社会福祉協議会職員

大田原キャンパスで授業を受けていたのですが、小高さんの姿がアップに映されたとき、その優しい表情を見て、資料「ウェブの星」にあった誰にでも優しくする小高さんの様子が伝わってきました。

小高さんの優しさは、「アクセシビリティ」という高齢者や障害者が不自由になることなく情報へアクセスできるような仕組みをしていくなかで全国に届けられています。

私は仕事柄、視覚に障害を持つ方と関わる機会が多くあり、仕事の内容などはメールで伝えたり、伝えられたりしています。

ある時、視覚障害者のOさんにどうやってメールの内容を確認しているのか聞いたことがあります。その時にOさんは、自身の真っ赤な携帯をバックから取り出し、「この携帯はね、目が見えなくても音声で何でも分かるようになっているの」と説明してくれました。

自宅へ伺った時にはパソコンを見せてくれ、インターネットで色々な情報が調べられることも教えていただきました。

そして、何気ない会話の中でOさんが、「目が見えなくても、今はパソコンをつかえば色々なことが分かるのよ。誰かが目が見えなくても使えるようにしてくれるんだから、私みたいな人には助かるわよ～」と言っていたことを、小高さんの話を聞きながら鮮明に思い出しました。

Oさんに限らず、小高さんの活動によって全国にいる視覚障害者や高齢者の方々は学んだり、楽しんだり、喜んだりと生活を豊かにしています。

小高さんの誰に対しても優しく接する人柄は、今度は「アクセシビリティ」を通じて誰にでも優しさを届けているのだと感じました。

小高さんからお話を伺った翌日、そのOさんと一緒に仕事をする機会がありました。そこで、どこのメーカーの携帯を使っているのか再び見せて頂いたところ「NTTdocomoのらくらくフォン」でした。そのことに嬉しくなり、小高さんの話をOさんにさせて頂いたところ「私の分も、お礼を言って下さいね。」と笑顔で話されていました。

私自身の気持ちとOさんの気持ちも込めて、貴重な活動とお話を聞かせて頂き、本当にありがとうございました。